

**白川村新庁舎建設事業基本設計・実施設計業務
公募型プロポーザル 評価基準**

1 評価項目および配点

評価は一次審査と二次審査による二段階評価とし、二次審査では一次審査の評価点は持ち越さず、二次審査のみの評価とする。（なお、課題 1 については、一次審査で提出した提案書を、課題 2，3 と合わせて再評価を行う。）

表 1：一次評価の評価項目と配点

評価の視点	評価項目	点数	
		配分	小計
事務所の評価	業者の事務所の立地	10.0	23.0
	技術者数	4.0	
	公共建築設計実績	9.0	
配置技術者の経験年数	管理技術者	3.0	6.0
	建築（総合）主任技術者	3.0	
実施方針	業務内容の理解度、取組意欲や積極性	10.0	20.0
	業務の取組体制、設計チームの特徴	5.0	
	特に重視する設計上の配慮事項	5.0	
技術提案書（課題 1）			51.0
合 計			100.0

表 2：二次評価の評価項目と配点

評価項目	点数	
	配分	小計
技術提案書（課題 1）	42.0	95.0
技術提案書（課題 2）	24.0	
技術提案書（課題 3）	24.0	
プレゼンテーションの発表・ヒアリング時の対応	5.0	
価格提案（見積書）		5.0
合 計		100.0

2 評価基準

(1) 一次評価

ア) 事務所の評価

① 県内業者【10.0 点】

表 3：事務所の場所に対する評価点

ランク	評価内容	評価点
A	岐阜県内に事務所や営業所を有する	10.0
B	近隣県内※に事務所や営業所を有する	8.0
C	その他	2.0

※近隣県内とは、石川県、富山県、愛知県、福井県を示す。

② 技術者数【4.0 点】

表 4：技術者数に対する評価点

ランク	技術者数（人）	評価点
A	30～	4.0
B	15～29	3.0
C	～14	1.0

③ 公共建築設計実績【9.0 点】

事務所の実績について、過去の実績 3 件について、1 件あたり 3.0 点とし、実績ごとに評価率を乗じたものの合計とする。

受賞歴の対象は、業務として完了した建築物で主に以下に示すものとする。

- ・日本建築学会（学会賞、作品選奨、作品選集新人賞）
- ・日本建築家協会（日本建築大賞、優秀建築賞、優秀建築選、新人賞）
- ・日本建築士事務所協会連合会（日事連建築賞）
- ・日本建設業連合会（BCS 賞）
- ・各都道府県又は各都道府県事務所協会（各表彰）
- ・公共建築協会（公共建築賞、特別賞、優秀賞）
- ・その他、委員会の判断とする。

※受賞歴は参加表明書提出期限日より過去 10 年以内に受賞したものとする。

表 5：事務所の実績の受賞歴に対する評価率

ランク	実 績	評価率
A	受賞歴のある実績	1.0
B	受賞歴のない実績	0.8

イ) 配置技術者の経験年数

① 管理技術者【3.0 点】

表 6：管理技術者の評価点

ランク	経験年数	評価点
A	15 年以上	3.0
B	10 年以上 15 年未満	2.0
C	10 年未満	1.0

② 建築（総合）主任技術者【3.0 点】

表 7：建築（総合）主任技術者の評価点

ランク	経験年数	評価点
A	15 年以上	3.0
B	10 年以上 15 年未満	2.0
C	10 年未満	1.0

ウ) 実施方針

① 業務内容の理解度、取組意欲や積極性【10.0 点】

表 8：業務内容の理解度、取組意欲や積極性に対する評価点

ランク	評価	評価点
A	極めて高い	10.0
B	高い	8.0
C	普通	6.0
D	低い	4.0
E	極めて低い	0.0

② 業務の取組体制、設計チームの特徴【5.0 点】

表 9：業務の取組体制、設計チームの特徴に対する評価点

ランク	評価	評価点
A	極めて高い	5.0
B	高い	4.0
C	普通	3.0
D	低い	2.0
E	極めて低い	0.0

③ 特に重視する設計上の配慮事項【5.0点】

表 10：特に重視する設計上の配慮事項に対する評価点

ランク	評価	評価点
A	極めて高い	5.0
B	高い	4.0
C	普通	3.0
D	低い	2.0
E	極めて低い	0.0

エ) 技術提案書（課題 1）の評価

課題 1 について、的確性、独創性、実現性それぞれ下記に示す評価を行う。

- ・ 的確性：与条件、課題を正しく理解し、的確な提案となっているか。
- ・ 独創性：工学的知見に基づいた独創的な提案となっているか。
- ・ 実現性：提案が理論的に裏付けられており、説得力のある提案となっているか。

① 課題 1【51.0点】

表 11：課題 1 に対する評価点

ランク 評価項目	A	B	C	D	E
	極めて優れている	優れている	普通	劣っている	極めて劣っている
的確性	17.0	13.6	10.2	6.8	3.4
独創性	17.0	13.6	10.2	6.8	3.4
実現性	17.0	13.6	10.2	6.8	3.4

(2) 二次評価

ア) 技術提案書の評価

課題 1, 2, 3 について、的確性、独創性、実現性それぞれ下記に示す評価を行う。
なお、課題 1 については、一次審査で提出した提案書を、課題 2, 3 と合わせて再評価を行う。

- ・ 的確性：与条件、課題を正しく理解し、的確な提案となっているか。
- ・ 独創性：工学的知見に基づいた独創的な提案となっているか。
- ・ 実現性：提案が理論的に裏付けられており、説得力のある提案となっているか。

① 課題 1 【各 42.0 点】

表 12：課題 1 に対する評価点

ランク 評価項目	A	B	C	D	E
	極めて優れている	優れている	普通	劣っている	極めて劣っている
的確性	14.0	11.2	8.4	5.6	2.8
独創性	14.0	11.2	8.4	5.6	2.8
実現性	14.0	11.2	8.4	5.6	2.8

② 課題 2, 3 【各 24.0 点】

表 13：課題 2, 3 に対する評価点

ランク 評価項目	A	B	C	D	E
	極めて優れている	優れている	普通	劣っている	極めて劣っている
的確性	8.0	6.4	4.8	3.2	1.6
独創性	8.0	6.4	4.8	3.2	1.6
実現性	8.0	6.4	4.8	3.2	1.6

イ) プレゼンテーションの発表・ヒアリングの応対に対する評価 【5.0 点】

プレゼンテーションの説明の分かりやすさ、ヒアリング時の質疑に対する応対の明快さや迅速さ等で総合的に評価を行う。

表 14：プレゼンテーション、ヒアリングの応対に対する評価点

ランク	A	B	C	D	E
評価	極めて優れている	優れている	普通	劣っている	極めて劣っている
評価点	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0

ウ) 価格提案（見積書）【5.0 点】

提案した見積金額について、その妥当性を評価する。

表 15：見積金額に対する評価点

ランク	A	B	C
見積金額÷上限提案価格	90%未満	90%以上 100%未満	100%
評価点	5.0	2.5	0.0

※上限提案価格を超える場合は、失格とする。